

学生との意見交換会(令和8年1月22日開催)実施報告について

本学における自己点検・自己評価の一環として、学生との意見交換会を実施した。本学に対する学生の評価を把握するとともに、大学運営の充実・改善を図ることを目的として実施。

本意見交換会では、「本学の教育・研究活動(授業、課外活動、就職支援等)において良いと感じる点(自慢できる点)」「大学での学びをより充実させるために必要なこと」等をテーマとし、各学部・研究科・短期大学部から14名の学生が出席し、学長、副学長及び各学部長等と、学生が日頃大学に対し感じていることについて意見交換を行った。

(実施概要)

1. 実施日 : 令和8年1月22日(木) 15時00分～16時30分
2. 場所 : 四天王寺大学 事務局棟6階講堂
3. 実施方法: 対面
4. 参加者 : 学生14名、教職員15名
5. テーマ : 本学の教育・研究活動(授業、課外活動、就職支援等)において良いと感じる点
大学での学びをより充実させるために必要なこと 等

1. 所属学部学科に関する意見

- ・文学部日本学科では、日本語、古典・近代文学、食文化、観光、サブカルチャーなど幅広い分野から選択でき、興味に応じた学びが可能である。また、1年次から発表機会が多く、準備が大変な側面もあるが、評価やフィードバックを受ける機会が豊富である。
- ・文学部国際コミュニケーション学科では、少人数クラスが中心であり、教員に質問や相談がしやすい。
- ・教育学部教育学科では、教育現場経験のある教員が多く、実践的な学びが得られる。
- ・看護学部看護学科では、国際分野や仏教系大学ならではの授業を通じて、多様な価値観を学ぶことができる。
- ・短期大学部保育科では、学生と教員全員が関わる科目があり、教員との距離が近く、安心して学べる環境が整っている。
- ・人文社会学研究科では、時間に制約のある社会人大学院生への配慮もあり、主体的に研究に取り組める環境が整っている。

この他、教員が親身に相談に応じる点や担任制度についても評価があった。

2. 授業・修学支援環境に関する意見

合理的配慮申請に対して適切な対応が行われていることへの評価や、「和の精神」に基づく人間教育 他者を思いやる「利他の精神」を育む教育方針が浸透していること、早期からの実践的な学びの機会、自然環境を活かした教育などへの評価があった。

看護学研究科では、外部講師の活用やオンラインと対面を組み合わせた柔軟な授業形態、課題に対する個別指導の充実などに対する高い評価があった。

人文社会学研究科では、専門的な学びは当然のこととし、学会発表機会や四天王寺福祉事業団の実践セミナーへの参加、高知市のオレンジカフェ視察、地域の福祉施設への訪問など、貴重な機会を得られたとの意見があった。

単位互換制度や資格取得支援(ダブルスクール制度)、奨学金制度、少人数による実習指導などへの評価があった。

一方で、グループワークやディスカッションの機会の充実、学部・学科間の交流機会の拡充、受動的な授業の改善など、授業内容や方法の工夫を求める意見があった。

3. 課外活動等に関する意見

部活動や委員会活動、オープンキャンパススタッフなど、学生主体の活動が活発である点に対する評価や、短期大学部においても、四年制大学との合同活動により他学部生との交流が図られている。

また、学修支援体制(PIATA)や地域連携活動(ワークショップ、企業連携、他大学連携等)の充実に対する評価や、藤井寺一番街商店街の空き店舗を活用し、本学が地域と深く繋がり、新たな価値を共に創り出す地域プラットフォームとして新たに設置した地域経済研究所(エリアデザイン・ラボ)の活動展開に期待を寄せる意見があった。

4. キャリア支援に関する意見

個別相談、面接練習、書類添削など、学生一人ひとりに寄り添った就職支援が行われている点が評価された。「特訓塾」などの外部講師による本格的な支援プログラムも充実している。

今後は、現在の個別対応の良さを生かしつつ、より早期から将来の働き方や現場を知る機会を提供することで、学修意欲の向上および進路選択の充実につながるとの意見があった。

5. 施設等に関する意見

サテライトキャンパスの利便性や研究設備などについて評価があった一方で、喫煙マナーの向上や交通機関(スクールバス)の充実を求める意見があった。

意見交換会は、学生の視点から本学の魅力と課題を直接把握する貴重な機会となった。今後は、得られた意見を学内で整理し、教育活動および学修環境の改善に活用していくこととし、引き続き、このような機会を継続的に設け、学修者本位の教育の実現に取り組む。